

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」
平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成29年2月17日(金)発行 第 43 号 発行責任者:高橋 弘悦

学校賞をいただきました

「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」

県で実施している「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」で、小学校8校、中学校4校に贈られる学校賞（会津教育事務所長表彰）に本校が選ばれました。

「十七字のふれあい事業」とは、子どもと家族、子どもと地域の大人、子どもと子どもなど、家庭や地域における人と人とのかかわりの中で、感じた思いや願い等を十七音で表現するものです。本校では、夏休みの課題として取り組みましたが、保護者の方々の全面的なご協力があったところが評価されたのだと思います。



親と子、あるいはご家族が同じものを見て、感じたことを17文字で表現する取り組みは、お互いの距離を縮めるきっかけにもなったのではないかと思います。これを機会に、普段から感じたことを率直に伝えない、きずなを深めていただければと思います。

《応募者からの感想・意見》

- ふだん何気なく親子でしていることを思い出しながらまとめていくことで、子どもの成長を再確認することができました。
- 「十七字のふれあい」に親子で取り組むにあたり、日頃気付かない子どもの想いにふれることができました。
- 考えている間、子どものことをたくさん考えました。子育てを見直すことができました。
 - 孫といっしょに十七字を考え、夏休みのよい思い出ができたことをうれしく思います。
 - 実際に書くとなると低学年にはむずかしいことですが、言葉を探すのに、家族全員で十七文字を選ぶ、これが本当にふれあいとなったことにおどろきました。

学年末テスト終了

でも大切なこれからの過ごし方

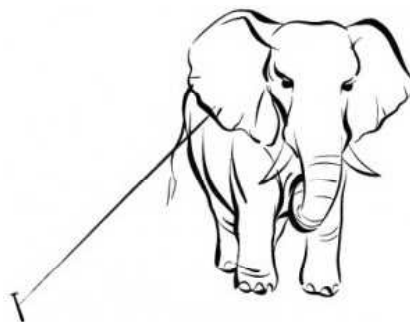
今年度最後の定期テストが終了しました。これからは卒業式、終業式に向けて準備活動が本格化しますが、「勉強への緊張感」では、若干気の緩みが出てくる時期でもあります。

本校は、さまざまな学力調査では概ね全国標準の学力を有しているという結果が出ていますが、一人ひとりの能力を考えてみると「まだまだ行ける…」と考えています。

小さい頃から飼いや慣らされている象は、成長してもその強大な力を持ってすれば容易に引きちぎられる細い鎖でもつないでおくことができる、といます。本校の生徒は、「私の力はこの程度…」と自分を過小評価している傾向があるような気がします。

学校では年度末に予定しているNRT（学力調査）、3年生は各高校から課されている入学前の課題の完全実施に向け、最後のまとめに力を入れていきたいと思っています。

今後、順次テスト結果が返されてくると思いますが、成績と共に自分の学習に対する取り組みをしっかりと反省し、気を抜くことなく次の学年につながる生活をさせたいと考えています。



黒板に見る生徒の姿

2月10日に発行された2年生の学級通信に、教室の黒板のことが触れられていました。

どこの学校でも授業終了後には日直が黒板の文字を消して次の授業に備えますが、消し方にもその学級の雰囲気が出てくるから不思議です。

文字は消してあっても、拭き跡が残っていたり、粉が散乱しているような黒板もあります。そういう教室は往々にして机が乱れていた、ロッカーが乱雑だったりします。

教員駆け出しの頃の朝の打合せの時のことです。校長先生から「生徒下校後の教室が乱雑な学級がある。きちんと指導しろ！」と厳しく指導されたことがありました。細かいこと、厳しいことで有名だった校長先生でしたので、「オッまたでたぞ。」と自分のこととは思わなかった、平然と聞き流していたものです。しかし、やはり気になりますので退勤時よく注意して見回りをしたところ、整然と整理された他の教室の中であって、私の教室だけが際だって乱れていることに気づくことができました。教室と同様乱れに乱れた生徒たち、またそれと同時に、その乱れに気づくことのできない自分のふがいなさを思い知らされた瞬間でした。

「黒板は教室の象徴である。」ということばを思い出し、それからは、どんなに時間がないときでも黒板だけは「きれいに拭き清めよう！」と心がけ、不十分だったときには自分で黒板拭きを実践し続けました。

その後は、生徒が自主的に黒板拭きを入念に行うようになり、同時に教室も、生徒の心も落ち着いていったことが思い出されます。

2年生の学級通信は、学級の黒板のきれいさを褒め称えるものでした。「うちの学校では子どもたちの心が豊かに育っているんだなあ…」と感じ、とてもうれしくなりました。



※20日は「自分でつくるお弁当の日」です！給食ありません。ぜひお子様とお弁当づくりをお楽しみください。